■(等持院)足利尊氏　**武将。変転する時代を巧く利用して室町幕府を創設し，初代将軍となった。**
あしかがたかうじ
・・・・・・1305＝　生。足利貞氏の次子，母は上杉頼重の女上杉清子。初名高氏。

足利氏は源氏将軍断絶後は清和源氏の嫡流として御家人の間で重んじられ，北条氏と肩を並べる存在であった。ところが，しだいに圧迫を受けるようになり，高氏の祖父家時のころから源氏再興の志を抱くようになっていた。

・・・・・・1314＝ **9歳：**

後醍醐天皇・1318＝13歳：

・・・・・・1323**＝18歳：**
正中の変・・1324＝19歳：

元弘の変・・1331＝26歳：元弘の乱が起こると，前執権北条高時は，父貞氏の死去にあったばかりで，まだ仏事も済ませていない高氏に畿内出陣を命じた。高氏は幕府軍の一方の大将として参戦したものの，高時のこの処置に深い憤りを覚え，**_心中北条氏打倒の決意を固めたという。**
・・・・・・1332**＝27歳：**
鎌倉幕府滅亡1333＝28歳：***隠岐を脱出した後醍醐天皇を攻撃するため，高氏は幕命により再び西上したが，途中後醍醐天皇のもとに密使を遣わして綸旨を受け，丹波の篠村八幡宮で倒幕の旗を挙げた。そして密書を諸国の豪族に送って決起を呼びかけ，京都に攻め入って六波羅探題を滅ぼした。六波羅を攻略した高氏は京都に奉行所を設けて混乱の収拾にあたるとともに，諸国から上京してくる武士を傘下に収め，社寺や武士の所領に対する濫妨や東海道における狼藉を禁じるなど，いち早く全国の軍事警察権を掌握する構えを示す一方，一族を東下させて鎌倉をおさえた。後醍醐天皇が帰京して建武新政が始まると，高氏は勲功第一として天皇尊治の一字を賜って尊氏と改名し，高い官位を与えられたが，政治の中枢には加えられなかった。尊氏は中央機関の職員に家臣の高師直らを送りこんで新政への発言権を確保しつつ，諸国の武士の糾合に努め，弟足利直義を成良親王に付けて鎌倉に下して関東10ヵ国を掌握させるなど，幕府再興への足がかりを固めていき，**
二条河原落書1334＝29歳：尊氏の動きを阻もうとする**_護良親王を失脚させた。**
中先代の乱・1335＝30歳：**_北条高時の遺子時行が関東で乱を起こすと，尊氏は乱鎮圧を名目に東下して鎌倉に入り(中先代の乱)，新政府への反逆の態度を明らかにした。**
南北朝分裂・1336＝31歳：***新田義貞軍を破って入京したが，まもなく京都を追われ九州に走った。途中持明院統の光厳上皇の院宣を受けて大義名分を得，態勢をたて直して再挙東上し，湊川で楠木正成軍を破って入京，光厳上皇の弟光明天皇を立て，建武式目を発布して室町幕府の開設を宣言した。後醍醐天皇は吉野に逃れ，朝廷を開いて尊氏に対抗したので，これより南北朝対立の時代となる。**
足利尊氏将軍1338＝33歳：**_北朝より征夷大将軍に任命され，内乱は終息の方向にむかうかにみえたが，**
・・・・・・1341**＝36歳：**
この前後，直義らの協力を得て，全国に安国寺・利生塔を設置。やがて，幕府内部の抗争が表面化，
観応の擾乱始1350**＝45歳：*直義の挙兵によって新たな争乱(観応の擾乱)が起き，これが南北朝の対立と結びついて，より深刻な様相を呈するに至り，**
・・・・・・1351＝46歳：**_尊氏は直義を下し，**
観応の擾乱終1352＝47歳：**_これを毒殺。大般若経600巻を開版。**
_その後も直義の養子直冬(尊氏の庶子)ら直義派の抵抗は止まず，京都を占領されることも一再ではなく，その対策に苦慮，自らを頼朝に連なるものと正当性を宣言すべく，三宝院賢俊のプロデュースで，大作絵巻「泰衡征伐絵」を作らせるが，
・・・・・・1357＝52歳：**_賢俊が死去したことから，**
足利尊氏没・1358＝53歳：***その完成を見ることができずに，背中にできた腫れものがもとで，没した。**

松崎洋二「足利尊氏」，「日本史を変えた人物200人」，「日本史重要人物101」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，「日本の群像」，平凡社百科事典，加来耕三「創始者の研究」，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，「室町絵巻の魔力」，「武将の死因」，